

4. 地方公共団体建設技術試験研究機関連絡協議会（建試協）の活動報告

技術支援課 清水直樹

1. はじめに

「建設技術に関する試験研究機関並びに職員の技術研修等に関して関係機関相互の連携を図り、相互協力のもとに業務を効率的に推進し、もって建設行政の発展に寄与することを目的に本連絡協議会を設立することは真に喜ばしいこととあります。」

この文は、昭和51年に地方公共団体建設技術試験研究機関連絡協議会（以下、建試協）が設立された当時、建試協の顧問にあたる建設省大臣官房技術審議官が関係機関に宛てた文書の一部である。

建試協は設立から38年を迎える歴史ある協議会であり、今現在もこの文書に記載されている目的のとおり、今日的な議題を共有し、会員相互で情報交換を行うべく活発な議論が行われている。

そこで本稿では、建試協が年間を通じて行っている活動内容と平成25年度に実際に話し合われた議題や講演・会員発表について紹介する。

2. 建試協の活動

(1) 構成

建試協の平成25年度の構成は以下のとおりになっている。会員は、全国の地方自治体の技術管理部門並びに試験研究機関に属する72団体が所属している。会長及び副会長は2年ごとに行う会員の互選により選出される。平成25年度の会長は、土木技術支援・

人材育成センター所長が務め、副会長は、大阪府都市整備部事業管理室長が務めている。また、国土交通省国土技術政策総合研究所（以下、国総研という）所長、並びに国土交通省大臣官房技術審議官に顧問をお願いしている。

(2) 建試協の活動

建試協の年間スケジュールは、表-1に示すように、9月から10月の間で開催するブロック会議、11月に開催する幹事会、2月上旬に開催する総会がベースになっている。

(3) ブロック会議

ブロック会議は、全国を各地域ごと、7つのブロックに分けて活動が行われている。

ブロック会議では、各会員が抱えている課題や事務局から提案された議題について議論し情報共有を図っている。以下に当センターが所属する関東ブロックでの平成25年度の議事内容について紹介する。

関東ブロック会議では、主に3つの議題があった。一つ目は、各建設技術センターからコンクリート、土質、骨材等の材料試験の実績や近年の動向についての報告。二つ目は、国土交通省関東技術事務所から、管理・保全、危機管理能力、調整能力に関する人材育成の取組、情報化施工における最新の動向、老朽化対策における自治体への支援など主要事業についての報告。三つ目は、各会員からの提案議題と

表-1 建試協の年間スケジュール

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
活動												
準備			・会報発行 ・予定周知	・ブロック会議 調整、準備				・幹事会 調整、準備		・総会 調整、準備		
会議						・ブロック会議		・幹事会			・総会	

して「アスファルト塊の再利用方法」や「再生アスファルトの針入度20の評価」などの討議があった。

(4) 幹事会

幹事会では、各ブロックの幹事及び顧問の国総研が参加し、ブロック会議の活動報告や国総研からの講演が行われる。以下に、平成25年度の幹事会の議事内容について紹介する。

各ブロック会議の会員提案議題では「リサイクル材の使用規定」、「コンクリート圧縮試験の頻度」、「鉄筋フレア溶接の引張試験」などの議題があがり、関連する会員から対応事例などが紹介され、活発に議論されたことが報告された。

講演では、「国土交通行政の最近の話題について - 老朽化を踏まえたこれからの社会資本整備のあり方を中心に - 」と題し、予防保全・老朽化対策や防災・減災を主眼に、平成25年に改正された道路法の要点、道路の老朽化対策における自治体支援の概要、TEC-FORCEによる災害への技術支援など、国土交通省の最新動向について国総研所長からご報告を頂いた。

(5) 総会

総会は、毎年、全会員が参加し開催されている。議事内容は、ブロック会議及び幹事会の業務運営報告、次期建試協の活動方針の確認、全会員に発信している事務局提案議題の結果報告などがある。また、その年に建試協で議論された主要な議題に関連したテーマについて国総研から講演を頂くとともに、会員発表が行われている。

平成25年度の事務局からの議題は「新技術・新工法の活用」、「マネジメントシステムに基づいた維持管理」の2題について提案され、総会ではその集計結果が報告された。

集計結果の一部を図-1に示す。「新技術・新工法の活用」の取組状況は自ら運営、外部委託、他団体の制度を活用など様々な関わり方があるが、会員の約7割が取り組んでいることが分かった。また、支援方法については、ホームページで周知、工事成績で加点、仕様書等で推奨との回答が多かった。

「マネジメントシステムに基づいた維持管理」については、会員の8割が取り組んでいるとの回答であった。また、維持管理の対象は、舗装、橋梁、ト

ネルなど多岐にわたっていることが分かった。

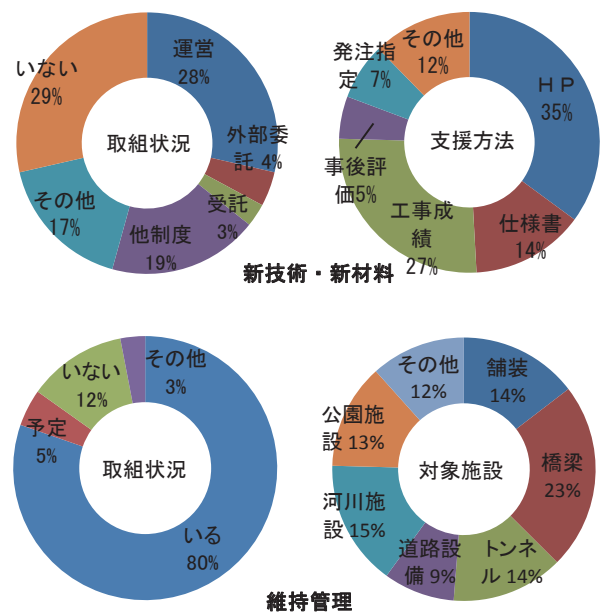


図-1 提案議題の集計結果（一部）

講演では、国総研の道路構造物管理研究室長から「道路橋の維持管理の合理化・高度化に向けた研究」と題して、道路橋の現状や維持管理に関する近年の出来事、維持管理の合理化・高度化に向けた研究の取組状況について、最新の知見を報告いただいた。

会員発表では、（公財）とちぎ建設技術センターから「びよ〜んとステップアップ とちぎ建設技術センターの研修事業について」と題し、わかりやすく、興味を引くテーマを理念に、設計業務、工事監督、人材育成などに関連した研修事業の取組状況について発表があった。

また、岐阜県県土整備部道路維持課から「岐阜県におけるMEを活用した道路の維持管理の取り組み」と題して、アセットマネジメントとメンテナンスプランによる戦略的・効果的な道路維持管理、ME（メンテナンスエキスパート）やMS（メンテナンスサポーター）の養成・活用による官民協働など新しい取組についての発表があった。

3. おわりに

全国の試験研究機関が一堂に会する建試協ならではの議事が会員同士で毎年討議されている。今後も建試協が発展すべく円滑な運営が行われるように努めていく。